

佐賀県研究成果情報（作成 2019 年 3 月）

[情報名] 施設栽培モモにおけるウメシロカイガラムシの発消長

[要約] 2 月中旬加温開始の施設栽培モモにおけるウメシロカイガラムシの歩行幼虫は 3 月から 10 月にかけて 4 回発生する。無加温栽培モモに比べ発生回数が 1 回増加する。

[キーワード] 施設栽培モモ、ウメシロカイガラムシ、歩行幼虫

[担当] 果樹試験場・病害虫研究担当

[連絡先] 0952-73-2275・kajushiken@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 果樹

[専門] 果樹虫害

[背景・ねらい] 近年、施設栽培のモモにおいて、カイガラムシの吸汁による枝の枯死等の被害が問題となっている。カイガラムシ類を効果的に防除するためには、卵からふ化直後の歩行・分散している幼虫を対象に薬剤散布を行う必要があるが、樹上のふ化幼虫を確認することが難しいため、適期防除ができていないことが多い。そこで、施設栽培のモモにおけるカイガラムシ類の発消長を調査し、防除対策の資料とする。

[成果の内容]

1. 無加温施設栽培モモ（3 月中下旬被覆）のウメシロカイガラムシ歩行幼虫捕獲数のピークは 4 月から 8 月にかけての 3 山型を示す(図 1)。
2. 加温施設栽培モモ（2 月中旬加温開始）のウメシロカイガラムシ歩行幼虫捕獲数のピークは 3 月から 9 月にかけての 4 山型を示す(図 1)。
3. 2 月中旬から被覆、加温を行うことで 3 月被覆の無加温栽培に比べ歩行幼虫の発生初めが早くなり、無加温では 3 回であった年間発生回数が加温では年間 4 回となる。

[成果の活用面・留意点]

1. 本結果は、2016 年から 2018 年に佐賀県果樹試験場内施設栽培モモでウメシロカイガラムシを対象として調査を行った結果である。なお、いずれの年も発生ピークを確認した後でカイガラムシ防除が行われた。
2. 各年の被覆等時期は、以下の通り。
2016 年 被覆期間：2016 年 3 月 15 日～7 月 15 日、加温無し
2017 年 被覆期間：2017 年 3 月 24 日～8 月 3 日、加温無し
2018 年 被覆期間：2018 年 2 月 13 日～6 月下旬、加温期間：2 月 19 日～4 月 27 日
温度管理は現地慣行に準じており、加温開始から 20 日後頃（開花前）までは最低 8～10℃、加温開始 30～60 日後（開花始～満開 25 日後）頃までは最低 12℃で管理されている。なお、加温期間中の施設内日平均気温は、無加温の場合と比較して約 6℃高く推移した(図 2)。
3. 歩行幼虫の発消長は、3 年ともウメシロカイガラムシ成虫の寄生が確認された枝の寄生部の上方 5 センチ以内に両面テープを設置し、2～7 日ごとにテープを交換して両面テープ上に捕獲された歩行幼虫数を計数する方法で調査した(図 3)。
4. カイガラムシ類の密度を抑えるため、第 1 世代からの防除が重要であるが、外気温や加温の早晚により発生時期が前後すると考えられるため、両面テープトラップを設置して発生時期を確認し、防除を行う。

[具体的なデータ]

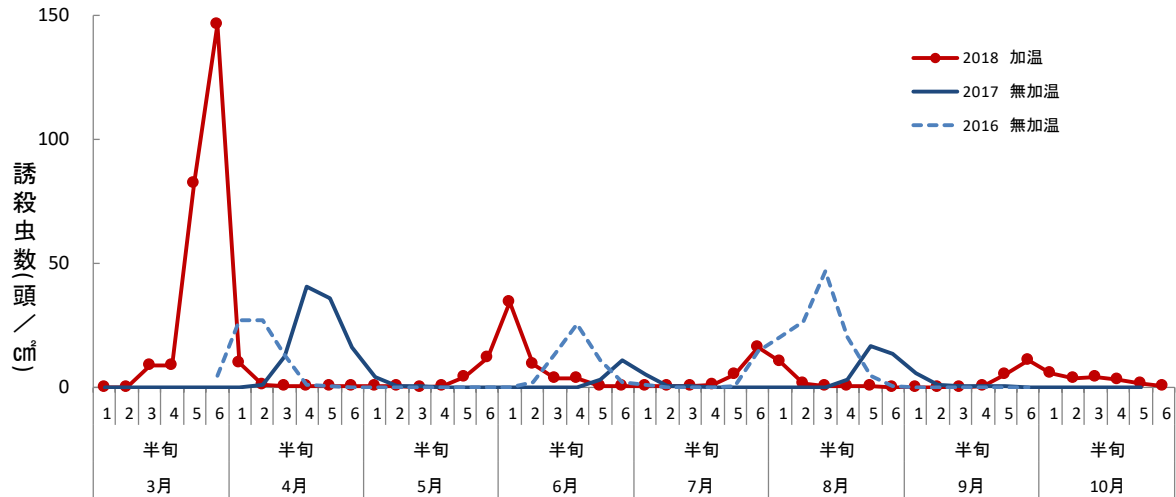


図1 施設栽培モモにおけるウメシロカイガラムシ歩行幼虫の捕獲消長(2016~2018)

注) 3年ともに調査を行った10枝を平均した値である。なお、調査を行ったのは同一の枝ではないため、虫数は単純に比較できない。



図2 モモ栽培施設内の日平均気温の推移(2017, 2018)



図3 両面テープを用いた歩行幼虫調査方法および捕獲された歩行幼虫

[その他]

研究課題名：果樹における難防除および新奇病害虫の迅速な防除技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2016~2018年度

研究担当者：白石祥子、近藤知弥、衛藤友紀

発表論文：なし